



《みのけら図屏風》1957頃

宗廣コレクション

芹 沢 鎧 介 展

2011年10月4日[火] ⇒ 11月20日[日]

開館時間 = 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) ※ 金曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)
 ※ 電力事情により開館時間などを変更する場合があります。ホームページやお電話でご確認ください。

休館日 = 10月11日(火)、17日(月)、24日(月)、31日(月)、11月4日(金)、7日(月)、14日(月)

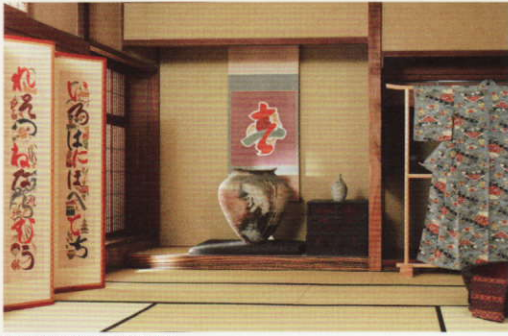
入館料 = 一般300(240)円 小中学生100(80)円

※ ()内は10名以上の団体料金 ※ 60歳以上の方、障がい者の方(付添1名を含む)は無料 ※ 毎週土曜日は小中学生無料

主催 = 渋谷区立松濤美術館、東京新聞 協力 = 岐阜県美術館

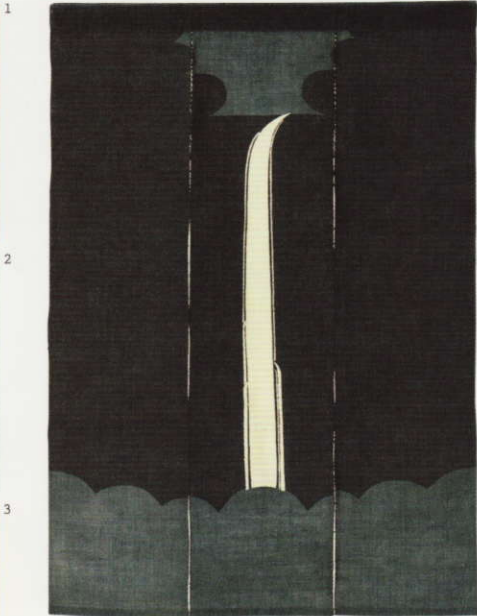
渋谷区立松濤美術館
The Shoto Museum of Art

宗廣コレクション「芹沢銈介」展 2011年10月4日[火]⇒11月20日[日]



宗廣邸内(撮影=宮川邦雄)

静岡市の呉服商の家に生まれた芹沢銈介(1895~1984)は、30代前半に民芸運動の創始者で、生涯の師となった柳宗悦と出会い、そして沖縄の伝統的な染色である紅型に衝撃を受けたことを契機に、本格的に染色の道へ入りました。河井寛次郎、浜田庄司らとともに民芸運動に参加し、紅型を精神的な支柱にすえつつ、極めて独創的な型絵染を考案しました。曇りのない明るさと静けさに満ちた芹沢の作品は、国内外で個展が開催されるなど、国際的にも高い評価を得ています。本展では、自らも染織家である宗廣陽助氏のコレクションから、代表的な型絵染による屏風、暖簾、着物のほか、宗廣氏が心から師と慕う芹沢の「手」が強く残る硝子絵や板絵、スケッチ帖などの肉筆作品もあわせて展示します。一人の染織家が自身の研究と芹沢への想いから強い情熱をもって蒐集してきた作品を通して、芹沢芸術の本質と魅力に迫ります。



1.《春夏秋冬・春》1954 2.《春夏秋冬・夏》1954 3.《春夏秋冬・秋》1954 4.《春夏秋冬・冬》1954 5.《御滝図文のれん》1962 6.《「沖縄風物」1. 往来屋上魔除けの獅子をしさいと云》1948 7.《欄に並ぶ本》1969 8.《壺屋風物文着物》1954 9.《沖縄笠扇類文部屋着地》1960

- 講演会
10月15日(土) 午後2時より
「芹沢銈介の仕事」講師：白鳥誠一郎(静岡市立芹沢銈介美術館学芸員)
- 記念ギャラリートーク
11月3日(木) 午後2時より 講師：宗廣陽助(紬織り制作者)
- 担当学芸員によるギャラリートーク
10月19日(水)、10月29日(土)、11月11日(金) 午後2時より
- 美術相談 ※ 有料：300円
10月23日(日) 午後2時~4時 講師：茂登山東一郎
11月19日(土) 午後2時~4時 講師：小沢優子
- 美術映画会
10月30日(日)、11月12日(土) 午後2時より 「芹沢銈介の美の世界」ほか
次回展 ⇒ 開館30周年記念特別展 渋谷ユートピア 1900-1945
12月6日(火) - 1月29日(日)

渋谷区立松濤美術館 東京都渋谷区松濤 2-14-14
Tel:03-3465-9421

The Shoto Museum of Art <http://www.shoto-museum.jp>

※電力事情により開館時間などを変更する場合があります。ホームページやお電話でご確認ください。

